

日本イコモス国内委員会

JAPAN ICOMOS INFORMATION

第3期 第3号 1996年 3月11日 発行

ソフィア総会への対応

委員長・石井 昭

本年10月5～9日にブルガリアの首都ソフィアでICOMOS第11回総会と国際シンポジウムが開かれ、次いで10～12日に見学旅行が催されます。参加を希望される会員は「ICOMOS NEWS, Oct. 1995」を参照して所定の手続きを進め、その旨を日本イコモス事務局にもご一報ください。今後の情報連絡を緊密にしたいと考えます。

総会では次期活動方針の策定、指針・憲章の採択、本部役員の改選など、多くの議事が予定されています。上程される「文化遺産の記録作成に関する指針」については、草案を再検討する特別委員会が先ごろ組織され、日本イコモスにも協力要請があったため、斎藤英俊氏を推挙し、去る2月20・21両日にローマで開かれた会議に参加していただきました。また、本部役員の選挙については、既報の通り、西村幸夫氏が執行委員（定員12名）に立候補しておられます。総会に出席される方々には、同氏の当選を期すべく、ご支援のほどをお願いします。

シンポジウムは HERITAGE AND SOCIAL CHANGES を統一主題とし、(A) ETHICS AND PHILOSOPHY, (B) POLITICS AND ECONOMICS, (C) METHODOLOGIES AND TECHNIQUES の3部門に分けて運営されます。ブルガリア・イコモスの TODOR KRESTEV 委員長 から来た2月12日付けの書簡によれば、論文発表希望者として登録された日本の会員は、足達富士夫、大河直躬、松本修自、西浦忠輝、渡辺定夫、片方信也、の6氏であり、全員の希望が受理されています。また、2月24日付けの書簡では、(C)部門の SPEAKER (RAPPORTEUR, 総括報告者) を日本イコモスから選出して欲しいとの要請が寄せられたため、西村幸夫氏を推挙する旨、ご本人の内諾を得たのち3月4日付けで回答しました。

総会とシンポジウムに先立ち、10月2～4日には、各種の役員会が開かれます。本部副会長の伊藤延男氏は幹部会、執行委員会、その他に出席され、私は日本イコモスを代表して諮問委員会、その他に出席する予定です。

目次

日本イコモス国内委員会1995年次総会報告	
Ⅰ 報告事項	2-4
Ⅱ 審議事項	5-6
Ⅲ 協議事項	7
1995年次第3回理事会報告	7
ICOMOS第11回総会(ソフィア)案内	宗田好史 8-9
国際専門分科委員会関係	
① 歴史的都市集落委員会一年会開催通知	10
② 木造文化財委員会-シンポジウム案内	11
会員便り-インドネシアから	野尻孝明 12
事務局よりのお知らせ	13-14

1995年次総会報告

例年は年が改まってから前年次の総会が開催されてきましたが、1995年次は年末の12月16日(土)午後1時から神田の学士会館において、1995年次の日本イコモス国内委員会総会が開かれました。暮の多忙な時期ではありましたが、出席者14名、委任状提出者58名計72名と過半数を越え、(1994年総会時の会員数は126名)総会は成立しました。主な報告、協議事項は下記の通りです。

I 報告

1. 一般報告

石井昭委員長より下記のように各項目に沿って報告が行われました。

昨年次(94年次)の総会は遅れて本年3月11日に開催された。以来、9ヶ月しか経ていないが、今年次(95年次)から正常に復すべく、本日、総会を開くこととした。ご了承いただきたい。

[今期(95-97年)役員を選任] 昨年次総会では準備が整わなかったため、委員長の選任のみが行なわれ、他の役員を選任は理事会に委ねられた。理事会は7月15日に会議を開き、理事12名(新任5、再任7)、監事2名(新任1、再任1)を選任した。また、前委員長はじめ3氏を名誉会員に推挙し、かつ理事会顧問に選任した。これらの人事については本総会において追認をお願いする。

[理事会と事務局] 12名の理事には日常の会務を積極的に分担していただくものとし、それぞれ担当を定めた。謝意を込めて特に言及しておきたいのは、庶務担当理事・渡辺保弘氏の過重な負担についてである。日本イコモス国内委の事務局は従前通り同氏主宰の(株)文化財工学研究所・気付という形をとり、所員・我妻綾子氏に通信連絡・文書管理・金銭出納などの大部分を引受けていただいている。

[広報活動] 本年、理事会が努力目標の一つとしたのは、会員間の情報交流を活発化することであった。主要な手段としてのニュースレター「JAPAN ICOMOS INFORMATION」は5月、8月、11月と、計3回発行し、全会員に郵送した。

[国際専門分科委員会への参加] 4月3-9日にハンガリーで開催された「歴史的都市集落委員会」に上野邦一氏が、また6月12-17日にフィンランドで開催された「保存トレーニング委員会」(加えて「20世紀遺産セミナー」)に稲葉信子氏が、それぞれ出席して活躍された。これらの会議の内容については INFORMATION(11月1日発行)に両氏から概要報告を寄せてもらった。

[クラクフ会議] ICOMOS創設30周年を記念してポーランドの古都クラクフで9月10日から16日まで種々の国際集会が開催され、日本イコモスからも4名が出席した。伊藤延男氏は幹部会・執行委・諮問委に、私は諮問委・式典・シンポジウムに、渡辺保弘氏・村上裕道氏は式典・シンポジウム・見学会・等に、それぞれ参加した。とくに村上氏は「遺産への責任」を共通テーマとするシンポジウムで「兵庫県南部地震の被害-文化財建造物を中心に」と題して感銘深い講演を行なった。これらの会合についての報告もまた INFORMATION(11月1日発行)に掲載されている。

[研究会] 国内では、10月7日(土)の午後、ストレイベイク・クリストフ氏(日本文化女子大学教授・都市計画学専攻)を講師として、学士会館分館で「ポーランドにおける歴史的都市の保存」をテーマとする研究会を催した。その概要は事業担当・益田兼房理事によって INFORMATION(11月1日発行)に紹介されている。本年は諸般の事情から、残念ながら、これ以外に研究会を開けなかった。

[出版物の配布] 文化庁から本年中に3種の出版物の寄贈を受けた。① K. E. LARSEN 著: ARCHITECTURAL PRESERVATION IN JAPAN、②「月刊文化財」2月号:「世界文化遺産

奈良コンファレンス（開催94年11月）特集」、③ K. E. LARSEN 編：NARA CONFERENCE ON AUTHENTICITY。関係者のご尽力に謝意を表したい。これらは、別途購入した④「建築史学」第24号抜刷：「世界文化遺産奈良コンファレンス小特集」と同様、広く全会員に配布した。

【富士山国際フォーラム】 富士山を世界遺産に登録しようという運動の一環として、先年来、地元諸団体を中心に「国際フォーラム」の開催が準備されていた。その共催者として日本イコモスも名を連ねた。7月4日の準備会議には渡辺保弘氏が、そして9月15-18日のフォーラムには伊藤延男・木原啓吉・西村幸夫の3氏が参加された。

【ソフィア総会に向けて】 ICOMOS第11回総会と記念国際シンポジウムが来年（96年）10月5-9日にブルガリアの首都ソフィアで開催される。共通テーマとして HERITAGE AND SOCIAL CHANGES を掲げるシンポジウムには、日本イコモスからも5名の論文発表希望者があり、本年6月、予備登録を終えた。一方、総会の最終日にはICOMOS本部の次期各種役員の選挙が行なわれる予定で、わが国からは西村幸夫氏が執行委員に立候補し、本年8月、所定の手続を終えた。ソフィア総会への対応については、時間が許せば、本総会において若干の協議をお願いしたい。

【訃報】 名誉会員・吉川 需氏は本年6月4日に逝去された。ご冥福を祈り、つつしんでご報告する。

【入会者と退会者】 昨年次総会から本総会までの間に、計13名の入会申込と、故吉川氏を含む計2名の退会届とが、理事会で受理されている。本総会においてこれらが正式に承認されると、会員総数は137名（うち名誉会員5名）となる。

（委員長・石井 昭）

2. 事務局報告

事務局担当理事より1995年次の事務局関係の報告が行われました。そのうち、10月15日までのものはすでに前号の<INFORMATION>(1995/11/1 発行)で報告済みのためそれ以降のものだけを記載します。

- 11/1 <JAPAN ICOMOS INFORMATION>第3期第2号発行・会員各位に送付
- 11/15 95年次国内委員会会費納入案内発送（2回目）なお、会費納入の便宜のため、郵便振込口座を開設し、今回より振込用紙を同封
- 11/30 UK/France ICOMOS Recording Guideline についてのWorking Group Membersの会議を1996年2月にローマで開催する旨のFAX受信
- 12/1 ブルガリア・イコモス委員長のT.クリステフ氏より、日本の国際交流基金フェロシップによる6ヶ月の研修者への推薦状と指導承諾書作成の依頼あり
- 12/1 石井昭委員長・渡辺保弘理事が文化財保護新興財団を表敬訪問
- 12/1 イコモス本部アレキサンダー女史より1996年秋に開催されるイコモス総会シンポジウムの原稿提出日変更のFAX受信
- 12/13 会計担当理事羽生修二氏来局、事務局の渡辺保弘と会計報告・96年次予算等について打合せを行う
- 12/16 95年次第3回理事会開催（95年次総会と同日開催・午前中）

3. 会計報告及び会計監査報告

95年次の会計収入は下記の報告書にしたがって担当理事より報告があり、木原啓吉監事の厳正な監査による監査報告が行われました。

日本イコモス国内委員会 会計報告 (1995/2/19~1995/12/13)

1. 繰越金

普通預金 (口座①)	792,806 円
普通預金 (口座②)	417,853 円
合 計	<u>1,210,659 円</u>

2. 収 入

会費収入	1,270,000 円
(86年~88年各 1名・89年~90年各 2名・91年 3名 92年 3名・93年 5名・94年15名・95年93名・96年 1名)	
普通預金利息	2,220 円
自由金利利息	210,841 円
立替金返済分 (イコモス本部)	30,000 円
合 計	<u>1,513,061 円</u>

3. 支 出

パリ本部に送金 (95年分・含送料)	323,205 円
総会・理事会費用	94,663 円
研究会費用	24,373 円
慶 弔 費 (吉川需氏お供)	10,000 円
国際会議出席費用補助 (5名・含振込料)	283,705 円
配布用及び事務局保存用書籍	110,031 円
通 信 費	314,354 円
印 刷 費	171,480 円
事務用品費	86,522 円
	<u>1,418,333 円</u>

★繰越金 (1,210,659) + 収入 (1,513,061) - 支出 (1,418,333) = 1,305,387 円

4. 残 高 (96年次への繰越金)

普通預金 (口座①)	721,312 円
普通預金 (口座②)	584,075 円
	<u>1,305,387 円</u>

5. 基 金 (イコモス研究振興基金)

12,550,000 円

以上の通り報告します。

1995年12月16日

会計担当 羽生修

庶務担当 渡辺保弘

監査の結果適当と認めます

木原啓吉

1. 役員改選の追認

94年次総会からの付託により95年第1回理事会(1995年7月15日開催)において15氏が今期(1995-97)の役員に、また、3氏が名誉会員および理事会顧問に選任された件につき、今回の総会において追認が行われました。なお、今期役員および今期より新たに名誉会員になられた諸氏については昨年8月1日発行の<INFORMATION 3-1>の第1回理事会報告をご参照ください。

2. 入会および退会

同じく95年第1回理事会報告の欄ですすでにお知らせした7氏の入会に加えて新たに下記の6氏の入会と1氏の退会が承認されました。

入会者	氏名	所属	推薦者
	ストベコ クリストフ	文化女子大学国際文化科	益田兼房・渡辺保弘
	中村雅治	文化庁文化財保護部建造物課	石井 昭・渡辺勝彦
	清水真一	文化庁文化財保護部建造物課	石井 昭・渡辺勝彦
	苅谷勇雅	文化庁文化財保護部建造物課	石井 昭・渡辺勝彦
	井上和人	文化庁文化財保護部建造物課	石井 昭・加藤晋平
	岡村道雄	文化庁文化財保護部建造物課	石井 昭・加藤晋平

退会者 佐古秀雄 (本人の届出により)

*上記により本年次(1996年)の会員数は137名となります(内名誉会員5名)。

3. 1996年次の活動方針

- (1) 会員：会員数の拡大、支部を設けて会活動の地方への浸透をはかることへの検討
また、財政基盤強化をかねて団体会員・賛助会員を積極的に考える等の意見が出され、討議が交わされました。
- (2) 事業：イコモスの存在が世界文化遺産関係で最近かなり知られてきたので、各方面への日本イコモス国内委員会のアプローチが望ましい。研究活動については、外国人専門家による講演会、会員等による建築、考古学遺跡、庭園文化的景観等の講演、また経常活動としては、日本の文化財保護の国際紹介の推進等についての提案があり、討議が行われました。
- (3) 渉外：国際的に現在日本の役割が期待されているので、外国からの依頼にはできる限りの対応が必要と思われる。とりあえずイコモスのシルヴァ会長が以前から提案している『20冊の本』(指名された20ヶ国のイコモス国内委員会による当該国の記念物・遺跡に関する本)の出版に協力するために、担当理事を中心に早急に作業を進めることが話し合われました。
- (4) 広報：[JAPAN ICOMOS INFORMATION]の編集・発行を通じてイコモスを中心とする文化遺産保存の活動に関する様々な情報を会員各位に提供したい。また、近年文化財保存分野の国際交流の活発化にともない、日本からイコモス関連の国際会議に参加・発言する機会も増え、海外で保存修復の実務に携わる方もあるので、それら最新のニュースを伝え、また会員各位の個人的な意見もレポートしていただく交流の場としてこの[INFORMATION]を機能させたい。との積極的な意見が担当理事から提出されました。なお、最近急速に整備されてきているインターネットによるイコモスのホームページについても担当理事より説明がなされました。
- (5) 庶務：ボランティアとしての事務局担当理事の負担が大きすぎるのではないか、この先の事務局の設置条件を含めた見直しについて討議する必要があるのではないかと意見が庶務担当理事から提出されました。これについて、事務局担当理事からは、現在理事在任3期目であるため、今限りで役員任期が完了する。そのため、その後の事務局運営に関する問題は今後の二年間で真剣に考えてほしい、との発言がありましたが、時間の関係で議論には至りませんでした。
(文責・渡辺保弘)

4. 1996年次予算

今年度予算は下記のように担当理事より提示され、承認されました。

1. <u>1995年次繰越金</u>	普通預金 (口座①)	721,312円
	普通預金 (口座②)	584,075円
	合 計	<u>1,305,387円</u>

2. 収 入

会費 1996年分	1,300,000円
未納分徴収	640,000円
利息 定期預金 (基金)	200,000円
普通預金	1,500円
合 計	<u>2,141,500円</u>

3. 支 出

会費 ICOMOS本部	350,000円
総会・理事会費用	100,000円
研究会費用	120,000円
活 動 費	170,000円
渡航費補助	200,000円
通 信 費	200,000円
印 刷 費	230,000円
事務用品費	150,000円
合 計	<u>1,520,000円</u>

4. 残 高 (1997年次へ繰越)

繰越金 + 収入 - 支出	<u>1,926,887円</u>
---------------	-------------------

今年次会員費は下記のように決定されました。

個人会費 10,000 円 / 1名

(上記予算案の収入の会費 1,300,000万円は、96年次会員数 137名の内、前納者 2名・名誉会員 5名分を引いたものです)

96年10月のソフィア総会出席者の渡航費補助については別途考慮する。



Ⅲ 協議

今回は、総会に参加された会員が相互に意見の交換ができるようにと、自由協議の時間を設けました。

議題としては、(1) ICOMOS第11回ソフィア総会への対応について、(2) 国際専門分科委員会への対応について、で1)に関しては添付資料に沿って委員長から経過報告があり、(2)の国際専門分科委員会に関しては、日本のイコモス国内委員会の会員が今後もっと幅広くこれらの委員会に参加できるよう周知を図り、有志を募ってはどうかとの意見が委員長から述べられ、次回理事会で継続審議されることになりました。因みに、現在イコモスには15の国際専門分科委員会がありますが、日本の国内委員会から何等かの委員会に所属している会員は僅か数名です。

(以上総会報告・事務局 渡辺保弘)

1995年次第3回理事会報告

上記総会に先立って午前10時30分より95年次第3回の理事会が同学士会館で行われました。(総会・理事会同日開催)

出席者	委員長	石井 昭	
	理事	上野邦一・渡辺勝彦・益田兼房・陣内秀信・安原啓示・西村幸夫 宗田好史・羽生修二・渡辺保弘	(以上9名)
	監事	木原啓吉	
	顧問	伊藤延男	
	陪席	我妻綾子(事務局)	合計13名

議事については、午後で開催される95年次総会の準備として、総会議案書の確認および会計報告・会計監査等にあてられました。

(以上理事会報告・事務局 渡辺保弘)



イコモス第11回総会/於・ソフィア/10月5～9日/開催のご案内

皆様すでに「ICOMOS NEWS/95年10月号」でご存じの通り、今年10月ICOMOS第11回総会がブルガリアのソフィアで開催されます。バルカン半島の中央に位置し、古くから東西交流の十字路口でもあり、数多くの文化遺産でも有名なソフィアでの総会には、日本からも多数の会員の参加が予定されています。本号の「JAPANICOMOS INFORMATION」でも、総会の内容を簡単にご紹介し、さらに多くの皆様にご参加を呼びかけます。

1.日程・会場・プログラムその他:

★日 程	1996年10月5日(土)～10月9日(水)
★会 場	National Palace of Culture / 文化宮殿(ソフィア市の中心部)
★プログラム(概略)	
10月5日(土) 9:00-12:30	開会式及び総会、会長挨拶、活動/会計報告など
12:30-18:00	国際シンポジウム開会式および全体会議
18:00-20:00	国際展覧会“Messages”開会カクテルパーティ
10月6日(日) 9:00-12:30	国際シンポジウム(3分科会)
12:30-22:00	分科会ごとのツアー
10月7日(月) 9:00-12:30	国際シンポジウム(3分科会)
12:30-22:00	分科会ごとのツアー
10月8日(火) 9:00-18:00	シンポジウム全体会議
10月9日(水) 9:00-17:00	総会(席上本部役員改選の選挙が行われる)
20:00-	晩餐会

★申込期限 4月15日までに「ICOMOS NEWS/95年10月号」に添付されている用紙に必要事項を記入して直接お申し込み下さい。費用の払い込み期限は7月末です。なお、会期に先立ちまして、10月の2～4日には本部執行委員会などが開催され、また総会会期後の10～12日には、オプション・ツアーが企画されています。詳細についてはまだはつきりしませんが、ブルガリア国内だけでなく、ギリシャ北部、マセドニア、トルコへのツアーも企画されています。詳しくは、お手元の「ICOMOS NEWS/95年10月号」をご参考下さい。また、まもなく届く予定の次号にも詳しい内容が記載される予定です。

2.シンポジウムについて:

第11回総会にあわせて国際シンポジウム「Heritage and Social Change」(遺産と社会の変容)が開催されます。詳しい内容は次号「ICOMOS NEWS/96年4月号」に掲載される予定ですが、これに先がけてブルガリア国内委員会 T.Krestev 委員長から、日本国内委員会に参加協力の要請が参りましたので、会員の皆様にお伝えします。

このシンポジウムでは、一昨年、奈良オーセンティシティ会議に引続き、急速に変化する世界の中で文化遺産への人類の理解を深めることで、文化の多様性を尊重する国際社会を探る議論が期待されます。標記の基本テーマは3つのサブ・トピックス(分科会テーマ)、A. Ethics and Philosophy; B. Politics and Economics; C. Methodologies and Techniques、に分けて討論されることが予定されています。

冷戦終結後、民主化と社会改革が急速に進められ、市民の生活ばかりか文化面でも根本的な変化に直面している東欧のブルガリアで開催されるこのシンポジウムに相応しい基本テーマです。これは東欧に限らず、今日世界人類が直面する課題でもあります。R.Silva会長のメッセージにも記されているように、西暦2000年に向けてICOMOSが発展していく上で、今後期待できる新規加盟国のほとんどは、いわゆる発展途上とされる国々です。人類の歴史遺産の保存分野での国際協力がますます盛んに展開する中で、「開発と保全」あるいは「持続可能な発展」といった課題は避けて通ることができません。このシンポジウムの議論は、これらの課題をめぐってICOMOSの新しい知見が展開することでしょう。

シンポジウムには、日本からもすでに6名の会員の発表が登録され、2月末締切でペー



パーが用意されています。さらに多くの会員の皆様がソフィアで各セッションの討論に幅広くご参加下さることと思います。

3.会期中のパネル展とヘリテージ・サロンについて:

同じく第11回総会期中に世界各国の会員による“Messages”展が開かれます。これは専門家個人、あるいは研究所など機関を単位として遺産の保存修復に関する調査報告、プロジェクト紹介や、保存技術の開発、あるいはアイデアをパネルとして展示するポスターセッションです。参加パネルの締切は7月末とのことです。

主催者のT.Krestev委員長は、日本からもできるだけ多くのパネルが寄せられるよう日本国内委員会に依頼してきています。この中では、会員各位の出展だけでなく、特に研究所、保存関連の専門機関からの出展への依頼が重ねて述べられています。会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。パネルは、縦位置で60×100cmのサイズという指定があります。筒に丸めて包装し、総会事務局に郵送するように指示されています。

また会場では“ヘリテージ・サロン”として保存に携わる研究機関、企業などの法人と専門家個人による出展会場を用意し、国際保存技術見本市の開催も企画されています。

4.総会へご参加の皆様への渡航手続きなどのご案内:

総会へのご参加を希望される皆様に、簡単ではありますが渡航のご案内いたします。ブルガリア入国に際しましては、日本国籍の会員の皆様は査証(VISA)が必要です。

総会出席の場合、会議参加目的の渡航となり、商用、業務、学術目的の渡航に準ずることになります。この場合、正式な招聘状、紹介状などの提出が義務づけられます。一方、これらの書類提出の要らない観光目的で査証申請されることも可能です。観光目的での入国の場合、有効期間が6カ月以上の旅券(Passport)に、印紙代¥3,450とパスポート・サイズの写真2枚を申請書類に添えて提出すれば、およそ1週間程度で取得できます。お忙しい皆様にはこの方法をお奨めします。ほとんどの旅行代理店が査証申請代行を行っていますが、東京の領事館に申請するために東京以外で旅行代理店にお申し込みの場合、別途¥10,500程度の手数料が必要になります。査証はぜひお時間をもってご用意下さい。

総会出席にあわせて東欧の周辺国にお寄りになる場合、入国は最近かなり自由になっていますが、まだ査証手続きの複雑な国々もございますので、重ねてご注意申し上げます。

ブルガリアまでは様々なコースでの渡航が可能です。現在のところ、今年10月の航空運賃は各航空会社とも出ておりません。夏休み明けにならないと分からない状況ではありますが、総会の会期は繁盛期を過ぎておりますので、コースによっては格安航空券も入手可能だと考えられます。これも早めにご準備いただくことをお奨めします。

5.本部役員選挙について、委任状について:

ソフィア総会では、ICMOS本部を構成する会長以下の各種役員の改選(任期1996年 - 1999年)が行われます。前号の「JAPAN/ICOMOS INFORMATION」でご紹介しましたように、現本部副会長の伊藤延男氏の退任にともない、東京大学都市工学科助教授の西村幸夫氏が次期執行委員に立候補され、日本国内委員会ではその選出を期して、総会に参加される会員の皆様のご支援を募っています。この意味から、参加を予定されている皆様はぜひ事務局にご一報下さい。場合によっては委任状の用意も考えております。

日本でもインターネットが急速に普及しつつあります。総会事務局のE-Mail Address: Todor.Krestev@bulmail.sprint.Comにお気づきと思いますが、現在パリ本部の他、米国、カナダ、ドイツなどの国内委員会のホームページが続々と立ち上がっており、「ヴェニス憲章」をはじめ各会議報告書などだけでなく、第11回総会の案内も掲載されています。http://www.icomos.org/bulgaria/11th_GA_announcement.Html をぜひご覧下さい。

国際専門分科委員会関係
(International Specialized Committees)

①歴史的都市集落委員会 (CIVVIH) のお知らせ

下記のように4月18日～23日にハンガリーのエゲルにおいて第15回の委員会が開催されます。上野邦一委員が voting memberとして登録されていますが、今回都合で出席出来ないそうです。会員各位の中から、この委員会に関心をお持ちの方の voting memberとしてのご出席が望まれます。ご出席の可能性のある方は、期日も迫っておりますので至急事務局までご連絡くださるようお願い致します。

ICOMOS
COMITE INTERNATIONAL SUR LES VILLES ET VILLAGES HISTORIQUES INTERNATIONAL
COMMITTEE ON HISTORIC TOWNS AND VILLAGES
TÖRTÉNETI VÁROSOK ÉS FALVAK NEMZETKÖZI BIZOTTSÁGA
CIVVIH

To All Voting, Honorary and Associated Members of CIVVIH

Budapest, 11.12.1995

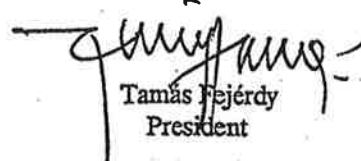
Let me inform you that the 15th annual meeting of CIVVIH is to be held between 18-23 April 1996 in Eger (Hungary), in the building of the headquarters of the Committee. (Arrival in Budapest on the 17th, departure from Hungary on the 24th of April.)

The meeting of the Committee will be joined with the 18 April International Day of Monuments and Sites, on the occasion of which an international conference will be held in Budapest under the title: Monument Preservation in Times of War Conflicts and After Natural Disasters - Popularizing the BLUE SHIELD Movement.

You will be informed about the detailed programme and the sum of the participation fee soon, but we considered it important that the date of the meeting could be fixed in your calendar in time.

Let me also inform you that, according to the decision passed by the Committee at its 14th meeting, the members of the Bureau of the Committee can take part in the annual meeting free of charge—the costs of their participation will be covered by the Hungarian National Committee of ICOMOS and the Local Authorities of the Town of Eger. The members of the Bureau are: Mr. N. Ahlberg, Mr. M. Bonnette, Mr. T. Fejérdy, Mr. D. Fowler, Mrs. T. Kirova, Mr. L. van Nispen, Mrs. T. Polichronova, Mr. K. Ueno, Mrs. B. Weicherding-Goergen, Mr. H. P. C. Weidner.

Looking forward to meeting you in Eger, sincerely yours,


Tamás Fejérdy
President

②木造文化財保存特別国際委員会 (IWC/木の委員会) のお知らせ (第2報)

前号で紹介しました4月14日～20日に英国で開催される木の委員会シンポジウムの詳しい内容が届きました。申し込み期日は過ぎていますが、関心のおありの方のご参考までに、重ねて掲載します。

ICOMOS UK The International Council on Monuments & Sites UK
10 Barley Mow Passage
Chiswick
London
W4 4PH

Telephone: 0181 994 6477
Facsimile: 0181 747 8464

Patron: His Royal Highness the Duke of Gloucester GCVO

ICOMOS INTERNATIONAL WOOD COMMITTEE SYMPOSIUM
14-20 April 1996

Great Britain is noted for its corpus of splendid timber-framed buildings, dating from the twelfth century onwards. The symposium will provide a unique opportunity to look at a selection of outstanding timber buildings, to see different regional traditions and to discuss conservation strategies in the company of leading international and British specialists.

The programme will start on the morning of Sunday 14 April at the reconstruction of the Globe Theatre, Southwark, London, and then, after looking at traditionally managed woodland in Kent, will visit sites in Sussex from a base at the Weald and Downland Museum of Buildings. From there the symposium will visit the workshops of McCurdy & Co (contractors for the Globe Theatre reconstruction) in Berkshire and will then travel to Shropshire and the Welsh borders, visiting major buildings in the West Midlands on the way. Following a visit to sites in Cheshire and Lancashire, the symposium will finish with an examination of restoration projects in Yorkshire and return to London on Saturday 20 April.

The emphasis will be on visits to work in progress and discussion on conservation techniques during the day, informed by evening lectures.

Organising panel: Richard Harris, Prof. Dr. Knut Einar Larsen, Peter McCurdy, Nils Marstein, David Michelmore, Graham Moss, Dr. David Yeomans.

Accommodation will be in good-quality hotels and the cost of U.K. £450.00 covers all accommodation (in twin rooms) for the nights of 14 - 19 April inclusive, all meals from lunch on Sunday 14 April to lunch on Saturday 20 April and transport by coach for the duration of the symposium. For a single rooms, a supplement of U.K. £100.00 is payable. The symposium will be strictly limited to 50 participants; in order to secure a place, a deposit of U.K. £50.00 should be paid to ICOMOS U.K. at the address above. The balance of the symposium fee will become due for payment on or before 14 February 1996. In case of cancellations after 14 February, the deposit will be forfeit.



JAPAN ICOMOS 会員便り(第1回)

「JAPAN ICOMOS INFORMATION」では会員間の交流を促進するための新しい企画として、今後、会員の皆様のお便りを掲載していきます。第1回目として、インドネシア在住の文化遺産保存の国際技術協力専門家、野尻孝明氏をご紹介します。これからも特に海外でご活躍の会員諸氏の近況報告などを掲載する予定です。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

インドネシア便り

国際協力事業団派遣専門家 野尻孝明

現在、私は勸文化財建造物保存技術協会に籍を置きながら、JICA（国際協力事業団）派遣専門家としてジョグジャカルタ市に赴任しております。これが3つ目の職場になります。

昭和57年に早稲田大学建築史研究室を修了後入会した同協会では、三重県津市に所在する重要文化財専修寺（せんじゅじ）如来堂の修復工事に同修理事務所長補佐として竣工まで6年間携わりました。専修寺は浄土真宗高田派の本山で、約3万坪の境内地に御影堂、如来堂の2つの重要文化財が建つのはじめ、山門、唐門、鐘楼などなど大規模木造建築が建ち並ぶ伽藍です。これらは200年以上にわたって建設され続け、幕末にいたってようやく完成されたもので、整った寺観を今日なお見ることができます。ここで如来堂の無垢な二軒扇垂木を調査することができました。また、専修寺の所在する一身田は、かつて専修寺を中心とする寺内町でそれを囲む環濠や土累が一部残っています。寺内町の地割りやそこに所在する末寺や坊官の屋敷、町屋からは、近世の都市と建築の様子を察することが容易に思われました。しかし、ここ1、2年それは急速に変貌しつつあります。

専修寺の修復後は、おなじ三重県内の関町にある重要伝統的建造物群関町関宿の保存事業に役場職員として従事しました。関は7世紀に「鈴鹿の関」が置かれたことに始まり、現在まだ、それが埋蔵されている歴史の町です。関宿は東海道五十三次の47番目にあたる宿場町でした。約2キロにおよぶ宿場は、中心に関の地藏という古刹を持ち、また両端が伊勢や奈良に至る街道との分岐点ということや、街道の難所鈴鹿峠を控えていることで繁栄しました。今日、街道の両側には約400棟の家が建ち並びますが、その約半数は伝統的建造物として保存の対象とされ、15ヘクタールが保存地区に選定されています。ここでは重要文化財の修復とは違って、そこに暮らす所有者や住まい手がいるということ、行政的に介入できる範囲が制度上、財政上限られていること、修復する対象が古建築ばかりでないことなどから修復のあり方について学ぶことができ、同時に地域にとっての保存の意味を住民と共に考える機会を得ました。関町にとって、豊かな自然と歴史遺産を活かしながら、どのように自分たちの地域を形作るかは、未永い課題として考えられています。

さて、インドネシアです。赴任先は公共事業省、任地はジョグジャカルタ市です。昨年9月から1年の任期ですが、すでにもう1年の延長申請が出されています。ジョグジャカルタでの歴史的地区調査を公共事業省がガジャマダ大学に委託していることから、私たちもガジャマダ大学建築学科に作業室をいただきました。JICA派遣専門家としてイエメン共和国サナア旧市街（世界文化遺産）修復事業に携わった経験のある吉田正二氏（会員）を頼もしい同僚に迎えています。作業は当面、特定地区での伝統的建造物や環境物件の調査票作りが、ゆくゆくは歴史的地区に共通する保存と開発のガイドライン作りが目標です。

当地に来て間もない頃、日本ではコンサベーションとプリザベーションをどう区別しているか、と問われました。それまではあまり考えたこともなく、その時は十分に答えられませんでした。ではインドネシア人はそれをどう違うものと考えているか、英語にしたときどうか、日本での用語（従って考え方）がどうか、ということかなと思いました。こちらでの経験を大切に日本での経験に積み重ねたいと思っています。そして文化財という視点でものを見て、保護という姿勢で社会とかがわり合うことでどのような貢献ができるか、実務を通して考えてまいりたいと考えています。

以上、簡単ですが自己紹介いたしました。なお、ジョグジャカルタ市は世界文化遺産のポロブドール、プランバナン遺跡まで各々1時間、20分という場所です。お近くにお出での節はぜひご一報の上、地元の私たちをご活用いただければと存じます。事務所の電話兼ファクスは；001-62-274-580092です。ICOMOS会員の皆様をお待ちしております。



事務局よりのお知らせ

◎国内委員会の動き (1995/12/22~1996/2/29)

1995 年

- 12/22 20 Booksの編集に関して、東京国立文化財研究所所長および関野克・稲垣栄三
伊藤延男・鈴木嘉吉の諸氏に、既刊の論文(英文)使用許可依頼書(回答書付)
を送付(96年1月回答受領済み)
- 12/26 イコモス国際専門分科委員会の WOOD COMMITTEE より、96年4月にロンドンで
開催される委員会の第2報を受領

1996 年

- 1/4 西村幸夫担当理事より20 Books関係原稿(第一部)を受領
- 1/4 ラールセン博士を1996年日本建築学会文化賞推薦のための書類を、益田兼房事
業担当理事より日本建築学会事務局に提出
- 1/11 スリランカのローランド・シルヴァ氏およびブルガリア・リトアニアの各イコ
モスより新年の挨拶カードを受領
- 1/11 第11回イコモス総会シンポジウムに関する資料を発表予定者に送付
- 1/17 1995年1月に注文した Scientific Journal No.4(Venice Charter)の件で、パ
リ本部よりFAX受信・書籍は近々に届けられる由
- 1/22 US/ICOMOS より96年の「Summer Intern Program」の案内書およびプログラム
申込書等を受領
- 1/22 フィンランドのイコモス国内委員会より、95/6/12-17にヘルシンキで開催され
た Conservation Training Committee Meeting(稲葉信子氏出席)の会議報告
書を受領
- 1/29 Scientific Journal No.4(95/1月会員各位のための注文の品・未到着)の代金
8,000FFを本部に送付
- 1/30 96年次会員名簿(英字)を本部に送付
- 2/5 CANADA/ICOMOS よりイコモス専門分科会 ICAHM(Architectural Heritage
Management)のDIRECTORYを受領
- 1/14 パリ本部より96年次会員カードを受領
- 2/20-21 ローマにおける「文化財建造物保存の記録作成と保存のガイドライン」作成の
ための会議(於ローマ)に斎藤英俊氏が委員長の依頼により出席
- 2/23 国際交流基金の招きで来日されたチェコスロバキア共和国のK.Kosova氏(イコ
モス会員)を、石井昭委員長が広島の世界遺産登録候補の文化財他を案内し交
流・意見交換した

◎その他のお知らせ

イコモス以外の主催(又は共催)による文化財保存関係のシンポジウム等の案内が下記
のように届いています。詳細をご希望の方は事務局までご連絡ください。

- ・ Interamerican Simposium on Authenticity 場所: San Antonio Texas, USA
期間: 1996/3/27-30 主催: US/ICOMOS • The Getty Conservation Institute
- ・ International Congress of Restorers 場所: Moscow, Russia
期間: 1996/5/19-25 主催: Union of Architects of Russia,
Academy of Architectural Heritage
- ・ International Course on Wood Conservation Technology 場所: Oslo, Norway,
期間: 1996/7/1-8/8 主催: ICCROM • ICOMOS • Norwegian Institute of Technology
- ・ Studies in Ancient Structures 場所: Istanbul, Turkiye
期間: 1997/7/14-18 主催: Faculty of Architecture Yildiz Technical Univ.



◎会計・事務局担当理事よりのお願い

- ・本年（96年次）分の会費納入のお願いを、今回この[INFORMATION]に同封させていただきましたので、ご協力の程お願いいたします。なお、これと入れ違いに本年の会費を納入して下さった方には、失礼をお許しください。
 - ・P.4の会計報告にありますように、当国内委員会は会員の皆様の会費及び基金の僅かな利息で運営されています。支出につきましては、パリのイコモス本部への納入金が会員一人当たり145FF（約3,000円）となります。また、通信費・印刷費・事務用品などのいわゆる事務局費は、皆様への[INFORMATION]をはじめ、様々なお知らせのコピー代・郵送代・またそれに伴う消耗品で、これに本部の納入金を併せると、お一人あたり年間およそ7,000円となります。どうぞこの事をご理解くださり、会費を滞納されている方はぜひご協力の程お願いいたします。
 - ・P.6の予算については、会員各位が本年次の会費を完納される事を前提としたものです。また、この年間予算は上記のように会費と僅かの利息の枠内での運営が前提となっているため、最も活性化の望まれる活動費にわずか17万円程度しか割けないような状態となっております。
- なお、日本イコモス国内委員会研究振興基金（12,550,000円）の利息収入は下記のように近年急速に減少しています。

1992年	674,524 円
1993年	421,680 円
1994年	341,360 円
1995年	210,841 円

会員の皆様のご協力を重ねてお願いいたします。

[JAPAN ICOMOS INFORMATION] 第3期 第3号

1996年3月11日発行

日本イコモス国内委員会 委員長 石井 昭

編集責任者 陣内秀信・宗田好史

事務局 渡辺保弘・魏蕪(事務局員)

連絡先：〒169 東京都新宿区大久保3-9-5-113 (株)文化財工学研究所気付

電話 03-3200-9355 FAX 03-3200-9423

